



南アフリカ新聞号外②

SABONA

鈴木 壮太

今回は、南アの教員の給与について書きます。現地の教員はどれくらいの給与を受け取っているのか、またどんなことにお金を消費しているのか気になったので、聞いてみました。

果たしていくら？

各州によって、給与制度の仕組みが異なるかもしれませんが、私の活動している州の公立小学校教員の給与制度を紹介します。

例えば 58 歳の教員（32 年勤務）の月収は約 R26,000 で、日本円にして約 22 万 6 千円（1 ランド 0.87 円計算）。給与明細を拝見させてもらったところ、額面給与から保険料や税金等が差し引かれ、手取り給与は約 R15,000（約 13 万円）。南アでは年齢は関係なく、勤務年数によって給与が変わってくるそうです。小学校の場合、学級担任から順に、学年主任、副校長、校長と階級があり、学級担任と学年主任では同じ勤務年数であっても月収に R1,000（約 8,700 円）の差があります。学年主任と副校長の差額は R2,000（約 17,400 円）です。

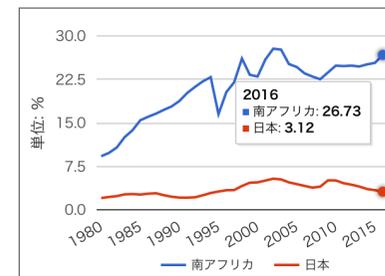
お金の使い道

現地教員の様子を見ると、遠くから歩いたり、同僚の車に同乗したりして学校に来る人もいれば、アウディやベンツ、BMW 等の高級な欧州車で学校に来る人もいます。また、大きな庭のある立派な家に住んでいる人もいれば、そうではない人もいます。

彼らにとって家庭をもち、立派な家、高級な車に乗ることが人の地位と成功を示すようで、とくに車にかける情熱は凄まじいです。例えば、同僚が高級車を買って学校に乗ってくると、他の同僚たちはその同僚に祝福の言葉を送ることもあるそうです。そのため、お金は車のローン（一括で購入することは滅多にない）や家に使い、その他は生活費に当てたり、貯金をしたりします。

しかし、車や家にお金をかけられない人も勿論います。例えば女性教員の方で、旦那が無職、息子たちの職もなく、息子に妻と子どもがいる場合、その女性教員 1 人で家族を支えることとなります。1 人で家族を支えるとなると、生活はやはり大変だと思います。このように職のない家族を養うケースはよくあるらしく、また、兄弟の数が非常に多いことも経済的に苦しくなる原因のようです（5 人兄弟くらいは一般的）。

【南アと日本の失業率の比較】



©世界経済のネタ帳

2016 年で比較すると、日本の失業率が約 3% に対して南アは約 27% です。南アの就労意欲を失った人を含めると約 40% にのぼります。確かに、昼間なのにどこか暇そうにしている男性をよく見かけます。

このように現地の教員の方と話す中で、家族の人数や家族の働き手の人数によって、お金の使い方が大きく異なることを知ることができ、私自身大変勉強になります。